

# 北っ子 敷島北小学校だより

令和7年6月30日 文責 学校長 増坪広夫

## たてわり活動から学ぶ「心の豊かさ」

テレビの企業CMで、鬼が「心の豊かさって、なんだ？」と人に問いかけるシーンを見かけました。人から優しくされ、ふれあうことから「心の豊かさ」について考え、気づいていく鬼の姿が印象的で、本校の子どもたちが学校行事などの教育活動で友だちとの関わり合いから日々成長する姿と重なります。

6月26日（木）に北小祭りが行われました。たてわり班ごとに「スライムづくり」「アスレチック」「おけけ屋敷」「射的」など、楽しいアトラクションを出店して他学年との交流を深めました。

実はこの行事を実施するために準備する時間も子どもたちにとって大きな意味があります。

6年生を中心に企画を考え、必要なものを用意し、会場や参加賞をつくるなど、目立たないところで活躍していた人がたくさんいました。そこには「喜んでもらいたい」「楽しんでほしい」といった願いがあり、それを達成するための過程で子どもたちは様々な事を学びます。その成果は、子どもたちの「心の豊かさ」として、これからの生活にきっと表れてくると思います。学校行事の成否はそこにあるような気がしてなりません。



## 過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えられる

私が高学年を担当していた頃に、こんなアンケートをとったことがあります。

- ① 自分がこれまで「友達にされていやだ」と思ったこと
- ② 友達に対して「意地悪しちゃった」「よくないことをした」と思えること



生活の振り返りをするために行ったものですが、スラスラと書く子もいれば、じっと考え込む子もいました。相対的には①と②は同じ数になるはずなのですが、結果はどうなったでしょうか。

なんと圧倒的に「①の方が②より多い」という結果になりました。学級が変わっても、この傾向は変わらなかったような気がします。

では、このことから何が見えてくるのでしょうか。

それは「嫌なことをされた記憶は強く残る」ということです。様々な子どもが集団で生活する学校生活では小さなトラブルは普通におこりえることなので、担任には上手に介入してもらいたいと思っています。学校でいざこざがあったとしても、最終的には「ゴメンね」「いいよ」が言えて「おたがいさま」の関係に戻れることができればいいなと思っています。そして、友達にたいして「意地悪しちゃったなあ」「悪かったなあ」ということについては、「これから先どうするのか」「どうしたいのか」「どうするのがよいと思うのか」よく考え、自分自身の人格を磨く機会にできればと思います。

実は子どもの人間関係の回復力はすごいもので、さっきまでケンカをして悪口の応酬だった2人が、帰る頃には肩を並べて談笑して歩く姿を目にすることは少なくありません。どうぞ、子ども同士のトラブルについては、まずは学校に任せてもらえるとありがたいです。



# ヤマアラシのジレンマ

哲学者ショーペンハウエルの寓話をもとに心理学のフロイトが考えたもので、「ヤマアラシのジレンマ」という話があります。

「寒さのなか2匹のヤマアラシが暖め合おうと近づきます。でも近づきすぎるとお互いの体の針が相手に刺さってしまうのです。かといって離れると寒くなってしまいますので、2匹は近づいたり離れたりを繰り返しながら、お互いに傷つかず、寒くもない距離を見つけていくのです」



「適切な人間関係をどのように保ったらよいか」をわかりやすく表現したお話ですが、長年、教育に携わってきた私からすると「年々まわりとの関係づくりが苦手な子どもが増加してきている」と感じます。子どものなかには「大人とはある程度人間関係が築けても、同世代の仲間とはうまくいかない」という子や、「保護者同士でお互いにもう少し理解し合えれば問題を大きく拗らせずに済む」といったケースも見かけるようになってきました。時には学校に「問題が起こらないように隔離するなどの対策をとってくれ」と要求してくる場合もありました。理不尽な関わりでわが子が被害を被ったのですから親とすれば当然の行動なのかも知れません。しかし、それですべてが解決するかと言えばそうではないように思います。



世の中には様々な性格や考えをもった人が生活しています。そのなかでは過度なぶつかり合いにならないように折り合いをつけながら生活していかなければなりません。隔離さえすれば解決するものではなく、保護者同士もお互いに子育ての悩みを共有しながら、適度な距離感で共に助け合いながら生きていくという考え方が大切なように思えます。



ケンカトラブルでよくあるのが、相手を一方的に責め立て自分は悪くないというお互いのスタンスでもめるケースです。これでは解決するものも解決せず問題が長引きます。「お互いに傷つかず、寒くもない距離を見つける」という適切な関係づくりへの深い理解と、お互い様の感覚が必要となります。お互いのとげで傷つけ合わないような距離感と、周りの心やさしい人たちの包容力などによる適切な援助があれば、適度の距離感のなかで生活が可能な非常にすばらしい個人や集団になるような気がします。

## 熱中症に注意

梅雨も明け本格的に暑い季節となりました。本校では体育の授業や休み時間の活動については、環境省から発表されている暑さ指数を参考にしています。暑さ指数が規定値以上の場合は「運動は原則中止」となりますので、休み時間を含め屋外や体育館での運動は行いません。ご家庭でも熱中症予防対策をお願いします。

- ◆「のどが渴いた」と思う前に水分補給
- ◆帽子をかぶる ※日傘（雨傘）を使用ときはまわりに注意
- ◆体調がおかしいと感じたら近くににいる先生にすぐ報告を

| 暑さ指数(WBGT)をチェックして<br>熱中症を予防しよう!                                                                                                                      |                  |                 |                 |               |             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-----------------|-----------------|---------------|-------------|
| <small>暑さ指数(WBGT)は、気温、湿度、日射、風速、放射熱などを考慮して算出されます。熱中症を予防するために、暑さ指数が25℃以上の場合、運動は原則中止となります。また、25℃以上の場合、長時間の運動は避けてください。暑さ指数が31℃以上の場合、運動は中止してください。</small> |                  |                 |                 |               |             |
| 気温(参考)                                                                                                                                               | 24℃              | 24~28℃          | 28~31℃          | 31~35℃        | 35℃以上       |
| 暑さ指数(WBGT)                                                                                                                                           | 21℃未満            | 21~25℃          | 25~28℃          | 28~31℃        | 31℃以上       |
|                                                                                                                                                      | ほぼ安全             | 注意              | 警戒              | 厳重警戒          | 危険          |
| 注意事項                                                                                                                                                 | 適切な水分補給を心がけましょう。 | 積極的に水分を補給しましょう。 | 積極的に水分を補給しましょう。 | 暑い運動は中止しましょう。 | 運動は中止しましょう。 |